



平成30年6月25日
十日町市 博物館

パリで開催される「ジャポニスム2018」における 「深みへー日本の美意識を求めてー」展について

日仏友好160年の2018年、両国政府間合意に基づき、フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018：響きあう魂」が開催されます（事務局：国際交流基金）。

この度、「ジャポニスム2018：響きあう魂」の公式企画として、「深みへー日本の美意識を求めてー」展に十日町市の国宝・火焰型土器が展示されることが決まりましたのでお知らせします。

○「深みへー日本の美意識を求めてー」展

ジャポニスム2018において、パリで展開される複数の展示会プロジェクトのコンセプトを総合し、合わせて世界に発信すべき「日本の美意識」を紹介する展覧会です。

パリの中心部に位置する19世紀に建築されたロスチャイルド館を会場に、歴史と現代を横断し、その対話を通じて創造的伝統と未来に向けての革新的創造を提示します。

期 間：2018年7月14日（土）～8月18日（土）

会 場：ロスチャイルド館

（Hôtel Salomon de Rothschild :11 Rue Berryer, 75008 Paris,）

主 催：国際交流基金

イニシャル・コンセプト：津川雅彦（ジャポニスム2018総合推進会議統括主査）

キュレーター：長谷川祐子（東京都現代美術館参事・東京芸術大学教授）

出 品：国宝・火焰型土器（No. 5）、王冠型土器（No. 16）※写真資料あり

同時展示：円空、葛飾北斎、ポール・ゴーギャン、パブロ・ピカソ、宮田亮平ほか

※発表内容は別紙「プレスリリース」をご覧ください。

詳細は国際交流基金（[https:// japonismes.org/](https://japonismes.org/)）からダウンロードできます。

■お問合せ先

十日町市博物館

担当：佐野 誠市 ☎025-757-5531

文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」いよいよオープン 美術展 2018年夏・公式企画ラインナップのご案内

日仏友好 160 年を記念した日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」がいよいよオープニングを迎えるこの夏、国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、フランスを代表する美術館とも連携して、パリにおいて下記のとおり大規模な展覧会を開催します。

メディアの皆様におかれましては、この機会に是非貴媒体にて本展覧会をご紹介しますよう、何卒宜しく願いいたします。

■「深みへー日本の美意識を求めてー」展

ジャポニスム 2018 においてパリで展開される複数の展覧会プロジェクトのコンセプトを総合し、あわせて 2018 年に世界に発信すべき「日本の美意識」を紹介する展覧会です。

パリの中心に位置するロスチャイルド館（Hôtel Salomon de Rothschild）を会場に、歴史と現代を横断し、その対話を通じて、創造的伝統と、未来に向けての革新的創造を提示します。

- 会期：2018年7月14日（土）～2018年8月18日（土）
- 会場：ロスチャイルド館
（Rue Berryer 11、パリ市 8 区）
- 主催：国際交流基金
- 協力：キヤノンマーケティング株式会社、日本航空株式会社、MHD
モエ ヘネシー ディアジオ株式会社、恒川フェルト工業株式会社、華陽堂
- イニシャル・コンセプト：津川雅彦（ジャポニスム 2018 総合推進会議総括主査）
- キュレーター：長谷川祐子（東京都現代美術館参事・東京藝術大学教授）

○出品作品・作家等一覧（敬称略、順不同）
縄文土器、円空、白隠、仙厓、葛飾北斎、柴田是真、田中一村、
李禹煥、宮田亮平、原口典之+田中泯、杉本博司、SANAA、
須田悦弘、大巻伸嗣、ANREALAGE+名和晃平|SANDWICH、
真鍋大度、澤田真一、平岡良、森山未来+ジュスティーン・エマール、
ポール・ゴーギャン、パブロ・ピカソ、アンヌ・ロール・サクリスト、
「独客」田中一村映像プロジェクト、知里幸恵編訳-アイヌ神謡集-展示プロジェクト



ANREALAGE, collaboration with Kohei Nawa | SANDWICH Inc.
ANREALAGE 2017-2018 autumn & winter collection "ROLL"



国宝＜火焰型土器＞十日町市博物館蔵
前 3,500～2,500 年

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

■ 展覧会企画趣旨

極東にあり、北から南へわたる気候と四季の変化に富んだ列島である日本の芸術文化は、自然と豊かな関係を持ち、そして他の場所から隔てられている事に依って、独自の文化の受容と展開をしてきました。

日本の美意識、思想の特徴は、静と動、男性性と女性性、善と悪、形式とカオス、永遠と一瞬、バロックとミニマル、伝統と現代、などの異なる／対立する要素を包含し、その間を揺れ動きながら「二つで一つ」として共存させている動態の中にとらえられるといえます。

その背景には、主体と客体や自然と社会を分離する、西洋の人間中心主義とは異なり、自然、環境と一体となりすべてのものに靈性をみとめていくアニミズム的思想があります。これはひとつは、他者の文化を取り込むとき、批評的フィルターを経る事なく、模倣と遊び心や好奇心による自由選択を通して、《日本化》する方法につながります。

また西洋のように空間の中の秩序や形といった「実体的な美」でなく、より時間性と関係性を重視した「状況の美」を特徴とします。外の文化の自由な取り込みと、場に対して開かれた関係性を重んじる日本の文化は、生命活動や細胞の新陳代謝にも似たダイナミズムと活気をもっていきます。



須田悦弘 朝顔 2014年

(c) Yoshihiro Suda / Courtesy of Gallery Koyanagi

テロや移民問題に悩み、人間が地球をとりまく環境のほとんどをコントロール下におく「人新世」と呼ばれる現代。解決の方向を模索する現在のフランスーヨーロッパにおいて、本展は現在と過去、異種の要素の間の共存、共創を示唆する、日本から発信するステイメントといえましょう。本展タイトル「深みへー日本の美意識を求めて」、は従来の日本の美に対するクリシェを超えてよりその本質、深みへと沈潜していただきたいという観客への呼びかけが込められています。そしてその深みにはいるために、展示空間には多くの異なるものの創造的関係を体験していただくための対話的構成がなされています。天井画やシャンデリアによって装飾された19世紀フランスの華麗な館に置かれた5000年余の時をわたる作品群。空間デザインに建築家のSANAAを迎え、透明でミニマルな浮遊感に満ちた展示は、作品の出自を無化し、対象との純粋な出会いの場に観客を導きます。

歴史的な作品と現代作品を併置、また日本と西洋の作家を合わせて展示する歴史横断的な、国際的な対話的構成は、日本の美に対して、新たな視点と発見をもたらします。各部屋は次の10のテーマに基づいて構成され、25人の作家及びプロジェクトによる、100余点の作品が展覧されます。そしてその根底を流れるものは「生命の表現」なのです。

10のテーマ

「バロック・過剰」、「原初の創造のエネルギー・プリミティヴィズム」、「錬金術・自然の靈性を引き出す錬金術」、「引き算の美学ーミニマリズム」、「生命力の根源をもとめてー南へ」、「デジタル時代の風景画ー「環境」にふれる」、「“主体化”する風景/軽みの哲学」、「新生ー繰り返される再生」、「異種混淆、共生」、「無限の変容体」

19世紀のジャポニズムが、世界や自然にむけての新たな見方や美学を示した第一弾のインパクトだったとすれば、本展は、第二弾として、2018年の現在のパリ、そしてヨーロッパの人たちに、多様で刺激的な《関係性》の構築と、想像力の響き合いを見せることとなるでしょう。

長谷川祐子(本展キュレーター)

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

写真資料：ジャポニスム 2018「深みへ-日本の美意識を求めて-」展に出品される国宝・火焰型土器と王冠型土器



国宝・火焰型土器 (No.5)



国宝・王冠型土器 (No.16)